

画像の認識・理解論文特集の発行にあたって

画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員長 日浦 慎作



本特集は、2017年8月7～10日に広島国際会議場で開催された画像の認識・理解シンポジウム(MIRU2017)に関連して企画されたものである。

MIRUは画像の認識・理解分野において国内最大規模の学術集会であり、1992年の第1回大会から数え、2017年で記念すべき第20回となった。近年では600名以上の参加があり、ここでの口頭発表は研究者にとって大変魅力的である。そこで従来は厳格な査読に基づき口頭発表を選定してきたが、MIRUを最終ゴールとして目指すことは、研究の国際的プレゼンスの向上、ひいては国内コミュニティの国際化にとってマイナスに働いてのではないかと懸念があった。そこでMIRU2013から4年間の試行として、口頭発表を希望する場合は英語での論文執筆を義務づけ、査読プロセスを情報処理学会の英文論文誌CVAと連動させた。これは査読にかかる労力を研究者の業績に結びつけるだけでなく、研究発表の早期段階からの英語化をモチベートすることを狙っており、その間、トップカンファレンスにおける発表件数の著しい増加など国際的プレゼンスの向上も進んだ。しかし一方で、得られたばかりの成果を質の高い英文にまとめるには一定の時間を要するなど、最新の研究成果をタイムリーに発表し多くの研究者と意見交換する場としての価値が低下したとの指摘があった。またMIRUではほとんどの発表や情報交換が日本語で行われていることに対し、論文だけを英文にする意義に乏しいという意見もあった。そこでMIRU推進委員会で検討を重ねた結果、4年間の試行期間を終えたMIRU2017から、以下に示す5つの場を提供することを目的に設定した。

1. 国内において芽生えた、挑戦的・萌芽的な研究

をプロモートし大きく育てる場

2. トップカンファレンス等への挑戦をモチベートする場
3. 国内の研究を一度に、かつ横断的に情報収集、総覧できる場
4. 研究者同士が知り合い、意見交換し、共同研究等につながる人的交流の場
5. 研究のトレンドを知り、最新技術を使いこなすための勉強ができる場

これらを実現するため、口頭発表の選定にあたっては、1) 口頭発表候補論文について再び日本語での執筆を可能とすること、2) 研究が業績として認められたような誤解を生じないよう「査読」の呼称を撤廃すること、3) 論文の完成度や定量的性能には必ずしもこだわらず、挑戦的・萌芽的な研究、ほかの研究者への刺激や参考になる研究を高く評価することとした。具体的には、従来は論文査読と同様であった査読フォームを一新し、研究の美点を主に記入する形式に変更することや、全ての段階と論文種別において論文ページ数を4ページ以下に統一するなどの対応を行った。

MIRU2017では82件の口頭発表候補論文の投稿があり、MIRU-CEB (Conference Editorial Board) による評価に基づきプログラム委員会が口頭発表23件を選定した。また従来通り選定プロセスを経ずに発表が可能な場として、ポスター発表206件、デモ発表13件、企業展示15件があった。更にトップカンファレンス発表者が国内向けに研究を紹介する場である招待講演12件を加え、萌芽的な研究に関する密な議論から、完成度の高い研究に学ぶことまでができるイベントになったと自負している。

さて、以上のようにMIRU2017では初期段階の研究に対する支援をより強く志向することとなったが、それゆえ、より進展した研究を厳密に審査し、確たる研究成果として、また研究者自身の研究業績として固定化する場が同時に必要である。本特集はまさにその点の充実を目指したものであり、従来通りMIRU2017での発表内容に限定せず、画像の認識・理解に関する論文を広く募集した。本特集へは15編の投稿があり、厳正な査読の結果、9編の論文を採録することとした。なお、うち3編はMIRU2017において口頭発表に選ばれた研究内容に関する論文であり、本特集では「MIRU2017推薦論文」として掲載されている。

最後に、優れた研究成果を投稿して下さった著者の方々、投稿論文を丁寧に査読して下さった査読委員の方々に御礼申し上げます。そしてなにより、論文誌の信頼性の礎となる厳格な編集委員会実務に際して、

きめ細やかな配慮をもって大変な御尽力を頂いた編集幹事の山下隆義氏、佐藤智和氏、川西康友氏と藤吉弘巨編集副委員長、またMIRU-CEBやMIRU2017プログラム委員から引き続き、長期間にわたり多大なお力添えを頂いた本特集の編集委員の皆様にご心より御礼申し上げます。

日浦 慎作 (正員) 1993年大阪大学基礎工学部制御工学科飛び級中退、1997年同大学院博士課程短期修了。同年京大リサーチアソシエイト、1999年大阪大学大学院基礎工学研究科助手、2003年同助教授。2010年広島市立大学大学院情報科学研究科教授。2008-2009年マサチューセッツ工科大学メディアラボ客員准教授。三次元空間の画像計測と反射現象・表面質感の解析、コンピュータショナルフォトグラフィ等の研究に従事。2000年画像センシングシンポジウム優秀論文賞、2010年情報処理学会山下記念研究賞、2012年MIRU優秀論文賞等受賞。情報処理学会、日本バーチャルリアリティ学会各会員、博士(工学)。

画像の認識・理解論文特集編集委員会

委員 長	日 浦 慎 作
副委員 長	藤 吉 弘 巨
幹 事	山 下 隆 義 ・ 佐 藤 智 和 ・ 川 西 康 友
委 員	井 尻 善 久 ・ 入 江 豪 ・ 岩 村 雅 一 ・ 牛 久 祥 孝
	内 田 祐 介 ・ 岡 部 孝 弘 ・ 小 野 口 一 則 ・ 河 合 紀 彦
	木 村 昭 悟 ・ 小 林 匠 ・ 酒 井 智 弥 ・ 島 田 敬 士
	高 橋 桂 太 ・ 武 口 智 行 ・ 中 澤 篤 志 ・ 西 山 正 志
	新 田 直 子 ・ 橋 本 学 ・ 日 野 英 逸 ・ 横 原 靖 彦
	増 田 健 ・ 目 加 田 慶 人 ・ 山 口 光 太 ・ 山 崎 俊 彦